1. 館長挨拶

芝浦工業大学図書館

館長 田中 直彦

芝浦工業大学は「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神として、東京高等工商学校を母体に1927年に創立されました。2014年9月には私立理工系大学として唯一スーパーグローバル大学に選ばれ、建学の精神の実現に向け着実に歩んでいます。改めて言うまでもなく、本学の目指すところは、世界に通用する技術者と優秀な研究者の育成にあります。

その中で図書館は、大学の歩みや時代の流れとともに変遷・発展してきました。年次報告書は、図書館業務が見える化させるため、2019年に初めて図書館ホームページ上で公開し、関係企業の皆様、大学の皆様にご報告させていただきました。その結果、多くの方々、特に企業の方々より、電子書籍やデータベースを多く導入した最先端の図書館の在り方、および展示リクエスト企画など対面型のサービスを併用した運営に、好意的なご意見を多数いただきました。こういった評価をいただくことは、図書館スタッフをはじめ関係者にとって大きな励みになっています。

豊洲・大宮・芝浦の3館での学生一人当たりの年間平均貸出数は全国の大学平均を大きく上回り、皆に親しまれ活用されておりましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、3月より図書館を臨時閉館とし、電子化の一層の促進と、図書館費用による宅配による貸出サービスの導入など、非来館型図書館に大きく舵を切っているところです。

本号は年次報告第2号であり、図書館における業務実績や各種統計を整理・保存するためだけでなく、自己点検・自己評価を目的とする調査結果などについても報告するものです。

世界水準の教育研究拠点にふさわしい役割を担うべく、創立100周年に向け更に進化しなければなりません。その目標に向かい図書館員一丸となって邁進する覚悟です。そのため、2020年度は大きく3つの柱を設定しました。

1. 学修支援としての図書館機能の強化

(1) 各調査の実施、データ分析による利用促進向上

学生の主体的な学修を促すために必要な人的サポートや図書館利用法ガイダンスの実施を強化し、資料・情報活用術を紹介するとともに、「図書館利用満足度調査」や選書会でのアンケート調査を実施し、分析・改善に努めます。「図書館利用満足度調査」には、教員向けアンケート項目を設ける他、留学生も含めた利用者ニーズを分析し、資料収集を拡充します。建築学部の完成年度に向けた関連資料・貸出状況を分析し、大学院生用の資料充実および洋書2万冊の蔵書を目指します。

(2) 図書館の情報発信（広報拡充）（業務の見える化）

図書館年報初号の読書アンケートを分析し、第2号を発行します。ホームページへの掲載をはじめ、企画展示・ニュースレター等、様々な活動を公開し、見える化を行います。

2. 研究支援としての電子ジャーナルの利用促進活動(最新学術情報・電子情報の収集と配信)
研究業績の国際的評価の向上につなげるため、関連部署と連携し電子ジャーナルの有効性を広く紹介します。電子ジャーナル・データベースの利用法案内画像を作成し、コンテンツを強化します。ホームページのトップページ画面の更新により、電子資料へアクセスしやすい環境を作り、電子資料の利用促進を強化します。

3. 就職関連活動における図書館利用の促進
最新情報を更新し的確な資料収集を図るとともにキャリアサポート課との連携を強化し、広報・資料の活用を促進します。就職関連データベースの利用説明会を開催し、下級年次生からの利用増を目指します。

これまで、図書館が何をやっているのか見えてこないというご意見をいただくことがありました。四半期ごとの「OH! MY LIB CAFE (芝浦工業大学図書館ニュースレター)」発行の他、各種企画や展示情報等の発信に努めてまいりましたが、更に前進すべく、ホームページへの図書館年報公開を決めました。業務の「見える化」を進め、図書館改革の一環として継続して参ります。

未だ不十分な点、改善すべき点は多々ありますが、皆さまに叱咤激励をいただきながら改革していく所存です。図書館の活動にご理解を賜り、より良い図書館運営を行うべく、皆さまのご協力をお願いいたします。

2020年4月